



# 山本浩之氏・渋谷梯子氏インタビュー

インタビューアー：藤村 浩似（本文中の敬称は略させていただきました）



講演会を終えた直後の山本浩之氏

— 手話通訳士になって、良かったこと、辛かったことは？  
渋谷 良かったことは、生き方を教えてもらったということ。多分ろうあ者の方に会ったり、その運動がわからなかったら、人生こんなもんだよみたいな、あきらめがあったかなあと。出会えたことによって、勇気をもらえて良かったと思います。

— 積極的に became と？  
渋谷 積極的にになりました。自分の人生だからあきらめたらダメだね。もしかしたら、頑張れば自分の道がひらけるかな？って、もしろうあ者に出会ってなかったら、こんな社会か…っていうあきらめの心みたいなところだね。  
— なるほど、もし無料の手話講習会の抽選に外れていたら手話はやろうと思いましたが？  
渋谷 貧しい学生だったから、外れていたら手話通訳士になっていなかったと思う。生まれたのが田舎で、札幌に来てろうの人に会いました。そして聞こえない事の不便さに気づいたのが札幌でした。もし、講習会に行っていなかったら、

社会福祉関係の施設に行っていて、きつと手話はやっていなかったと思います。— 最後に今日の講演を終えて一言お願いします。  
渋谷 自分の思ったことを大切に、失敗とか嫌なこと、いろいろやったらいいと思います。それが、手話と関係ないことでも、それらを結びつけてその経験をろうあ者の人に伝えていくと、ものすごいよこんでくれます。だから、いろいろなことを経験して、それを持ち寄って、手話で伝えていくこと。がんばってほしいなあと思います。

— 大学に入るまで手話を使っていなかったとのことですが、健聴者に対して話しかける勇気はあるんですか？  
山本 そうですね、勇気はなかったかもしれない。その時は友達が少ないから。つまり、話す時は一対一になりやすいから、話が出来ても最高で三人くらい。もっと友達欲しいという気持ちはありましたけど。また、僕の場合は高い音が拾えないということもあって、女性と話ができません。話したい年頃でしょ？好きな子に、話かけ



手話を使いながら、熱弁を振るう渋谷梯子氏

ただ、だめだった。今考えたならもったいないですよ。ね。  
— 本学は、バリアフリー委員会で、情報保障を行なっています。それが大学を選ぶ参考になりますか？  
山本 本学ならば、自分が学びたいと思う内容が先にあり、そのための保障があるということが順番かな？と思います。残念だけど、勉強したい学部が無いというのはどうなのかな？逆に聞こえない学生達に聞きたいですね、どちらを選ぶのかと。バリアフリー委員会みたいな、組織がある

大学は素晴らしいと思います。出来れば、ほかの大学も増やしてほしいなあって思います。そうすれば、僕達の選択の幅が広がるでしょ？他の大学に対して啓発していく活動を広報部で行なっていくと良いのでは？  
— 最後に今日の講演会を終えてということ。  
山本 一年生であれば、今日話したことが、「今日見て、明日忘れちゃった」ではなく、活動を続ける上できっかけになってほしいです。上級生は、改めて勉強になったと思ってもらえれば良いなあと思います。

# 市立名寄大学訪問

五月十一日、北海道名寄市の市立名寄大学で、「バリアをなくそう会（平井美帆サークル長）」主催の、ノートテイク体験講座が開かれ、約六十人に参加頂きました。

リーダーの三好正孝、副リーダーの白江香澄・水田奈津美、テイク統括部の日向智博・青木雄大。そして、パソコン要約筆記者として敦賀佑樹と本間広大が、行ってまいりました。まだ見ぬ名寄の土地、そしてそこで出会えるであろう人達の事を考えると、名寄へ向かう電車の中、気分は高揚していました。

名寄に着くと、そこは期待通りの大自然。ますます気分が高揚しながら、お出迎えいただいた車中、外の景色にすっかり夢中になっていました。市立名寄大学は名寄市街地に在り、とても綺麗な校舎で、街と自然に見事に調和した美しいキャンパスでした。大学の皆様にあたたかくお出迎えいただき、すっか

り緊張も解け、落ち着いてテイクをすることができました。講座自体も、リーダーの三好正孝をはじめ、進行役がそれぞれしっかりとその役を担い、集まっていただいた皆様に、真剣にこちらの話を聞いて頂き、非常に心地よい緊張感の中、講座は進んでいきました。

また、参加していただいた皆様にも、ノートテイクに体験していただきました。参加者の方からは、「ノートとボールペンという、普段使い慣れている道具ながら、自分にもできそう」といった意見や、「こういった取り組みを学生主体で行っているのはすごい」という様な、様々な感想をいただき、とても感動しました。とても暖かい皆様のご協



市立名寄大学キャンパス

力のおかげで、良い体験講座になったと思います。これからも、様々な交流を通じて、お互いの活動を活性化していければと強く感じ

ました。最後にになりましたが、今回の市立名寄大学への派遣に際しまして、ご協力下さいました関係者各位の皆

になりました。実際の、ノートテイク活動では、二人で行うので、一五分でペアのテイクと交代する形になりました。今年から、バリアフリー委員会ではテイク活動を委員会活動の中心としたので、新入生の皆様には、積極的にテイク講習会を受講していただきました。

テイク活動とは、難聴学生の耳となり、情報を伝える活動のことです。ただ先生の話をテイクするだけではなく、周りの雰囲気や、状況も伝えます。

テイクの方法には、ノートテイクとパソコンテイクの二種類があります。講習会もノートテイクとパソコンテイクの二種類に分かれてテイクの練習を行います。その練習は、既存のテイクが例文を話し、その内容を受講生がテイクするというものでした。一つの例文が終わるごとに、経験者のアドバイスをもらいながら、練習しました。そして回を重ねていくにつれ、練習も実際の講義型式

ました。最後にになりましたが、今回の市立名寄大学への派遣に際しまして、ご協力下さいました関係者各位の皆

様、誠にありがとうございました。改めまして、厚く御礼を申し上げます。ご協力下さいます。  
(文責・本間 広大)

## パソコン・ノートテイク講習会開催!!!

になりました。新入生はこの練習も真剣に取り組んでいきます。初回の講習会を受けた学

生にインタビュースたところ、「テイクは難しいけれど頑張る」という回答や、「テイクは楽しかったし、上手になることができそうなので一緒にテイクする人と協力して頑張りたい」と答える等、やる気のある人もいました。また、講習会に参加した経験者の学生は、「最初にしては上手にできていると思う。すぐに実際のテイクをすることができたらいい」、「不安だと思っけれど、自信を持って頑張っほしい」また、「今年は、新入生が多いので期待している。」など、新入生にエールを送っていました。

現在、もうすでに実際の講義でテイクをおこなっている新入生もいますが、五月のテイク講習会だけでなく、六月も継続して講習会を行なうことになりました。新入生の皆さんは、今後も継続して講習会に参加し、頑張っテイクを行って下さい。  
(文責・伊藤康宏・柿崎 真希)

# 新入生歓迎会開催

今年度の新入生歓迎会が四月二十八日に行われました。司会は交流部リーダーである敦賀佑樹さん。手話通訳は白江香澄さんと平留美さんが行いました。はじめにバリアフリー委員会リーダーである三好正孝さんの挨拶があり、その後、委員会の世話人をしてくださったという新國三千代先生がバリアフリー委員会のこれまでの活動についてご説明くださいました。新國先生による委員会のご説明は、新入生にとってはバリアフリー委員会を知る機会になりました。また、継



新入生歓迎会—集合写真

続生にとっては、改めてバリアフリー委員会を見直す良い機会になりました。そして、商学部三年の加藤翼さんによる乾杯が行われ、会は進行していきました。最初は緊張の面持で参加していた新入生も、徐々に場の空気に馴染んできたようで、面白い笑い声が溢れていました。くじで割り当てられた席順により、初対面の人同士でも自然と会話がなされ、各所で学科や学年を越えた交流も見られました。

・編集後記  
新体制になって、最初の一号です。新入生のみならず、忙しい中無理を言ってますみませんでした。改めて来月もよろしくお願ひします。最近日本語をきちんと書くということが、大変だということが身にしています……。(本間)

新入生歓迎会の時間もしだいに終わりに近づいてきたところで、四組の有志による漫才やコントが行われました。いつもはコンビで登場する「クロキンス」ですが、今回は青木雄大さん一人での登場。スケッチブックを用いたネタで笑いをとりました。その後で大学の情報保障制度の確立にも協力できたと思えます。また、身体が不自由な学生と接することで、障がいを持つ人の実際の生活や制度上の不便さなども知ることができ、大変勉強になっていきます。

よつやく広報部の一員になった実感を得られました。お疲れ様でした。(光)  
初めて記事を任されて、慣れないことばかりで、大変でした。しかし、充実した仕事でした。これからも頑張ります。(武田 成乃)  
今回記事を書くために思い出すと、新歓ってやっぱり楽しいですね。すでに来年が楽しみです。(もり) 今、タフを讀破中(ふじ) 何はともあれひとまず、初仕事が終わりました。あきの、TEAM・Type Oでまだ頑張りよう。(やよ) パソコンもまったく出来ない自分が、迷惑をかけながら書き上げました。暖かく見守ってください。(ま) 広報初仕事、なんとか終わりホッとしております。また次の記事もしっかりとやっていきたいと思ひます。(こま)

がったと感じています。例えば、一・二年生の時に



参加した「全国ろう学生の集い」では、多くのろう学

## 副リーダー 白江 香澄

した。その経験に基づき、今年度はバリアフリー委員会のメンバーと共に名寄短期

生やテイカーに出会い、情報保障制度の現状について知識を深めることができま

サポートをできる部分は積極的にしていきたいです。

(文責・大森 麻美)